

狛江市都市計画マスタープラン 改定に向けた市民意見のまとめ

2011年（平成23年）3月

狛江市都市計画マスタープラン（以下「都市計画マスタープラン」という。）の改定にあたり、早い段階での市民からの意見聴取を行うとともに、計画の存在・内容と改定の周知を行うことを目的として、団体へのアンケート、オープンハウス及び市ホームページにおけるアンケートをそれぞれ実施した。以下意見を整理し、市民意向を把握し、計画の改定に活かすものとする。

1. 団体アンケート結果

■対象団体

「狛江市の市民参加と市民協働の推進に関する基本条例」第2条第5号で定義されている「市民公益活動」を行う団体、また、地域住民が自発的に行う活動を行う団体。都市計画や狭義の「まちづくり」に関わりの深い団体に限らず、59団体を抽出した。

■実施時期

平成23年1月

■回収数

団体の分野	依頼団体数	回収団体数
1. まちづくり関連団体	4	2
2. 環境保全関連団体	4	3
3. 防犯・防災関連団体	39	14
4. 福祉関連団体	4	2
5. 子育て関連団体	2	1
6. 教育関連団体	2	2
7. その他	4	2
合計	59	26

■アンケート結果

（1）都市計画マスタープランの認知度

- 都市計画マスタープランを「よく知っていた」という回答は、34.6%だが、「聞いたことはあった」を合わせると9割近くに達している。

選択肢	回答数	構成比
1. よく知っていた	9	34.6%
2. 聞いたことはあった	14	53.8%
3. 全く知らなかった	3	11.5%
合計	26	100.0%

*合計値が四捨五入の関係で、各構成比の合計が100.0%にならない場合がある。（以下同様）

(2) まちづくり条例等の認知度

- ・「狛江市まちづくり条例」や条例に基づく「地区まちづくり」や「テーマ型まちづくり」等の制度を「よく知っていた」という回答は、23.1%である。「聞いたことがあった」を合わせると約8割になる。

選択肢	回答数	構成比
1. よく知っていた	6	23.1%
2. 聞いたことはあった	15	57.7%
3. 全く知らなかった	5	19.2%
合計	26	100.0%

(3) 土地の利用方法（都市構造・土地利用）について

- 土地の利用方法については、「多摩川・野川の水辺空間やみどりの多い自然環境」や「市域のコンパクトさ」を強みとする回答が多くみられた。
- 「今後の開発や良質なまちづくりの可能性」を指摘する回答も比較的多くみられた。
- 改善すべき点としては、ミニ開発や緑地整備と伴わない開発などの「計画性に乏しい住宅地開発」、「民有地の有効利用の遅れ」に関連した回答が多くみられた。

◆よいところ（1 団体が複数の回答をしていることや、回答していない場合があるため、合計値は団体数と一致しない。以下同様）

回答の種類	回答数
1. 市域のコンパクトさ	5
2. 交通や立地条件の良さ	3
3. 地形の平坦さ	2
4. 低層中心でゆったりとした雰囲気のある住宅地	2
5. 多摩川・野川の水辺空間やみどりの多い自然環境	6
6. 都市農地の存在	3
7. 効率的な空間利用	1
8. 路地裏的な空間の存在	1
9. 今後の開発や良質なまちづくりの可能性	4
10. その他（市民活動の拠点の立地）	1
合計	28

◆改善すべきところ

回答の種類	回答数
1. 計画性に乏しい住宅地開発	4
2. 民有地の有効利用の遅れ	4
3. 公共施設の跡地利用の不十分さ	1
4. 農地や緑地の減少	2
5. 工場跡地の土地利用	1
6. 区画整理の立ち遅れ	2
7. 大規模商業施設の不足	1
8. 北部への公共施設集中化	1
9. 企業の転出と誘致活動の不足	2
10. 三角広場の有効活用の遅れ	2
11. その他（市の指導力不足・よいところを生かす工夫と努力・集会所の改築・水道局跡地の積極的利用等）	5
合計	25

(4) みちづくりと交通（道路・交通網整備）について

- ・みちづくりや交通については、「幹線道路の整備の進捗」を評価する回答が多くみられた。
- ・「生活道路整備の立ち遅れ」に関わる意見が多いものの、その他、交通事故対策を中心として多様な問題点の指摘があった。

◆よいところ

回答の種類	回答数
1. 交通や立地条件の良さ	3
2. 幹線道路整備の進捗	5
3. 小田急線の立体化・南北分断の解消	3
4. バス網の改善	2
5. 自転車利用に適した平坦な地形	1
6. ガードレールの適切な維持・管理	1
7. その他（公共施設周辺の道路整備）	1
合計	16

◆改善すべきところ

回答の種類	回答数
1 幹線道路の整備の立ち遅れ（一中通り・南部から狛江駅へ向かう路線等）	4
2. 幹線道路の交通量の問題	1
3. 生活道路整備の立ち遅れ（幅員不足・行き止まり・抜け道化・舗装等の問題）	10
4. 歩行や自転車利用のための道路整備	5
5. 自転車交通の安全性の問題	1
6. 駐輪場の整備	1
7. 横断歩道の設置	1
8. こまバスの停留所の不足	1
9. 土地利用との連携	1
10. その他（喜多見駅に向かう道路の危険性・交通事故対策・電柱による危険性・暗所の多さ・多摩川土手の舗装の必要性・子どもが安心して歩けるような道の整備・樹木による自転車走行の妨げ・集水枡の増設・多すぎる信号機等）	13
合計	38

(5) 緑のまちづくり（公園など緑の保全と整備）について

- 緑のまちづくりについては、「樹林地や宅地内へのみどりの存在」に関連した回答が多く、緑地保全の重要性が示されている。
- 緑道や多摩川・野川の存在が重要視されている。
- 改善すべき点としては、「樹林地や農地など緑地の減少」を懸念する意見、「公園の魅力の不足」「樹木の維持・管理の問題」を指摘する意見が複数みられた。

◆よいところ

回答の種類	回答数
1. とんぼ池公園の芝生等	3
2. 樹林地や宅地内のみどりの存在	7
3. 野川緑地公園等の緑道	3
4. 多摩川・野川の水辺空間	3
5. 市民管理による公園の存在	2
6. 美しい並木の存在（あいとぴあセンター前の桜並木等）	2
7. 弁財天池特別緑地保全地区の保全成功	1
8. 緑のまちづくりへの積極性	1
9. その他（南部の開発可能性・樹木の多い小中学校等）	3
合計	25

◆改善すべきところ

回答の種類	回答数
1. 樹林地や農地など緑地の減少	2
2. 公園の総面積の不足	1
3. 公園の魅力の不足	2
4. 和泉多摩川緑地の整備の立ち遅れ	1
5. 水辺空間の再生の必要性（小河川の復活可能性検討の必要性・野川の水質改善）	2
6. 身近な公園・緑地整備の立ち遅れ	1
7. 樹木の維持・管理の問題	2
8. 生垣の不足	1
9. その他（公園の植栽による安全面の問題・樹木へのネームプレートの必要性・防災的観点からの大規模公園の必要性・街路樹の整備・行政の対応の迅速さ・住民参加による体制づくり・緑地の活用も考えた保全・防犯への留意・ミニ公園の管理・多摩川のバーベキュー時のごみ処理等）	11
合計	23

(6) 美しいまちづくり（都市景観の保全と創出）について

- ・都市景観については、「多摩丘陵とみどりの景観」「多摩川・野川の水辺空間の景観」の評価が高い。
- ・清掃や自転車などに関するソフト面での取組みの成果を指摘する回答もみられた。
- ・改善すべき点としては、一戸建て住宅地の建築形態、マンション建設による景観の悪化などが挙げられている。
- ・街並みのカラーコーディネートなど、さまざまな提案もみられた。

◆よいところ

回答の種類	回答数
1. 多摩丘陵とみどりの景観	5
2. 多摩川・野川の水辺空間の景観	4
3. 良質な開発地区の景観	1
4. 低層中心でゆったりとした雰囲気のある住宅地の景観	2
5. 狛江駅前の景観（竹林、看板が少ない）	2
6. その他（清掃が行き届いた市街地・自転車整理による景観向上・第五小学校の芝生等）	6
合計	19

◆改善すべきところ

回答の種類	回答数
1. 違法建築等による住宅地の景観阻害	2
2. 無秩序なマンション建設	1
3. 放置自転車による景観阻害	2
4. 宅地のみどりの維持・管理の問題	1
5. 景観改善への取組み	1
6. その他（多様な主体が連携した水と緑のまちづくり・住宅地としての景観誘導の必要性・市役所の外壁の塗装・狛江古墳群の整備・人の集まる箇所での美観の悪化・市が目指すべき姿の提示・街路樹の整備・学校の外壁の落ち着いた色彩への改善・街並みのカラーコーディネート等）	12
合計	19

(7) 安心・安全のまちづくり（防災・防犯・交通安全）について

- ・安心・安全のまちづくりについては、「市民や地域の団体による活動が活発である」ということを指摘する回答が非常に多くみられた。
- ・改善すべき点としては、道路の改良による交通安全の必要性や自転車による事故対策など都市づくりに関わる回答もみられたが、街灯や防犯カメラの改良・増設による防犯対策を望む回答が非常に多くみられた。

◆よいところ

回答の種類	回答数
1. 市民や地域の団体による活動(ボランティアによるパトロール・登下校時の見守り等)	14
2. 隅切りの普及	1
3. 街灯の増加	1
4. 治安の良さ	1
5. 多過ぎない交通量	1
6. 歩道の拡幅による交通安全の向上	1
7. その他(相対的に安全・子どもの見守り放送)	2
合計	21

◆改善すべきところ

回答の種類	回答数
1. 狭あい道路の多い区域の防災性の問題	1
2. 道路の屈曲や幅員不足による交通事故の危険性	3
3. 自転車による交通事故の危険性	2
4. 街灯の数や照度の不足	6
5. 植栽の防災への配慮の不足	1
6. 避難場所の問題(第7小学校の閉校による)	1
7. その他(和泉多摩川緑地の防災拠点化・非常時の通過道路の対応・安心安全メールの配信の遅れ・行政としての防災対策の強化・火災発生時のサイレンの復活・防災防犯活動の空白地帯の存在・防犯カメラの必要性・災害時の重機の確保等)	21
合計	35

(8) 福祉のまちづくり（バリアフリー化等）について

- ・福祉のまちづくりについては、「公共・公益施設のバリアフリー化の進展」を評価する回答が比較的多くみられた。
- ・改善すべき点としては、「道路のバリアフリー化の立ち遅れ」を指摘する回答が多く、その他、福祉施策全般に対する充実を望む意見が多くみられた。

◆よいところ

回答の種類	回答数
1. 歩道のバリアフリー化の進展	1
2. 公共・公益施設のバリアフリー化の進展（地域センター・市役所・駅・歩道等）	4
3. 第7小学校跡地での育児及び高齢者向け施設利用の検討	1
4. コミュニティバスの導入（西野川地域の利便性の向上）	1
5. その他（行政による改善努力・町会による福祉事業の実施・補助金制度等）	6
合 計	13

◆改善すべきところ

回答の種類	回答数
1. 道路のバリアフリー化の立ち遅れ（段差・車椅子にとっての幅員不足・電柱等の障害物・歩道舗装の目地等）	6
2. 公共施設のバリアフリー化の遅れ（障がい児のためのエレベーター・学校等）	3
3. 店舗のバリアフリー化の遅れ	1
4. その他（災害への備え・特別養護老人ホームの不足・災害弱者の情報把握・市の福祉施策の主体性・補助金不足・市民意見の聴取・周知・子供の遊び場づくり等）	12
合 計	21

2. オープンハウス時のアンケート、意見聴取結果

■実施時期

2月6日（日）から2月9日（水）まで

■回収または意見記録数

12件（職員が直接聞き取りを行ったものを含む）

■アンケート結果

（1）都市計画マスタープランの認知度

- 都市計画マスタープランを「よく知っていた」という回答は41.7%であったが、「聞いたことはあった」という回答を合わせると8割を超えている。

選択肢	回答数	構成比
1. よく知っていた	5	41.7%
2. 聞いたことはあった	5	41.7%
3. 全く知らなかった	2	16.7%
合計	12	100.0%

（2）まちづくり条例等の認知度

- 「狛江市まちづくり条例」や条例に基づく「地区まちづくり」や「テーマ型まちづくり」等の制度を「よく知っていた」という回答は16.7%であったが、「聞いたことはあった」という回答を合わせると、8割を超えている。

選択肢	回答数	構成比
1. よく知っていた	2	16.7%
2. 聞いたことはあった	8	66.7%
3. 全く知らなかった	2	16.7%
合計	12	100.0%

(3) 土地の利用方法（都市構造・土地利用）について

- ・土地の利用方法については、「多摩川・野川の水辺空間やみどりの多い自然環境」や「市域のコンパクトさ」を強みとする回答が比較的多くみられた。

◆よいところ（個人が複数の回答をしていることや、回答していない場合があるため、合計値は回答者数と一致しない。以下同様）

回答の種類	回答数
1. 市域のコンパクトさ	2
2. 立地条件のよさ	2
3. 多摩川・野川の水辺空間やみどりの多い自然環境	3
4. その他（都市的・地方的要素の共存）	1
合計	8

◆改善すべきところ

回答の種類	回答数
1. 準工業地域	1
2. 農地や樹林地の減少	1
3. 大規模敷地の土地利用転換への対応	1
4. その他（合併の必要性・使われていない公園・セールスポイントが不明確・取組みが中途半端）	4
合計	7

(4) みちづくりと交通（道路・交通網整備）について

- ・みちづくりや交通については、「幹線道路の整備の進捗」を評価する回答が 2 件であった。
- ・改善すべきところとして、八幡通りなどの「生活道路整備」に関わる意見が多く寄せられた。

◆よいところ

回答の種類	回答数
1. 幹線道路整備の進捗	2
2. バス網の改善（こまバスの運行開始）	1
3. その他（都道 114 号線整備にあたっての残地への緑地整備の取り組み・総合的な計画の存在）	2
合 計	5

◆改善すべきところ

回答の種類	回答数
1. 幹線道路の問題（自動車交通量・水道道路の歩道の幅員不足と勾配）	2
2. 八幡通りの危険性	4
3. こまバスの利用状況	1
4. その他（生活道路整備の優先順位の明確さ・こまバスへの介助員の必要性等）	3
合 計	10

(5) 緑のまちづくり（公園など緑の保全と整備）について

- ・緑のまちづくりについては、「緑地や農地の存在」などが評価されている。
- ・改善すべき点としては、緑の減少などが問題とされたほか、下記のように、さまざまな施策に関する意見が寄せられた。

◆よいところ

回答の種類	回答数
1. 公園の存在	1
2. 緑地や農地の存在	2
3. 多摩川の自然	1
4. 弁財天池の緑地保全	1
5. その他（清水川の買収整備・古墳や屋敷林の存在）	2
合 計	7

◆改善すべきところ

回答の種類	回答数
1. 樹林地や農地など緑地の減少	2
2. 多摩川の活用方法	1
3. 緑空間の不足（和泉多摩川駅周辺）	1
4. その他（東京航空計器跡地の公園化・緑地保全のビジョンの不明確さ・水道局跡地の整備・ボランティアを活用した公園整備等）	5
合 計	9

(6) 美しいまちづくり（都市景観の保全と創出）について

- ・都市景観については、狛江通りの沿道景観などを評価する意見が寄せられた。
- ・改善すべき点としては、低層住宅地の街並み形成に関する意見などがあつた。

◆よいところ

回答の種類	回答数
1. 幹線道路沿いの景観（狛江通り）	1
2. その他（景観を考えようとしている）	1
合 計	2

◆改善すべきところ

回答の種類	回答数
1. 低層住宅地の景観（緑の不足・建築物の高さ・色彩・形態等を規制する景観条例や地区計画の推進）	3
2. 道路・公園等の案内の充実（歴史の記述等）	1
3. その他（雨水浸透ますの設置の義務付け・美しさが感じられない）	2
合 計	6

(7) 安心・安全のまちづくり（防災・防犯・交通安全）について

- ・安心・安全のまちづくりについては、「災害発生の宿泊体験」の実施を評価する意見があつた。
- ・改善すべき点としては、「大規模集合住宅の安全確保の必要性」「自転車による交通事故の危険性」などの意見が寄せられた。

◆よいところ

回答の種類	回答数
1. 災害発生の宿泊体験の実施	1
合 計	1

◆改善すべきところ

回答の種類	回答数
1. 大規模集合住宅の安全確保の必要性（条例の整備等）	1
2. 自転車による交通事故の危険性（マナー向上）	1
3. 災害時の即応体制	1
4. 多摩川の増水時の対策手法	1
5. その他（のびのび公園北側の道路の改良・社会福祉協議会との連携強化）	2
合 計	6

(8) 福祉のまちづくり（バリアフリー化等）について

- 福祉のまちづくりについては、「よいところ」として「行政の理解」が、改善すべきところとして「歩道の整備」という回答がそれぞれあった。

◆よいところ

回答の種類	回答数
1. 行政の理解	1
合 計	1

◆改善すべきところ

回答の種類	回答数
1. 歩道の整備	1
合 計	1

3. 市のホームページによるアンケート結果

■実施時期

2月1日（火）から2月15日（火）まで

■回答数

11件

■アンケート結果

（1）都市計画マスタープランの認知度

- ・都市計画マスタープランを「知っていた」が2件、「聞いたことはあった」が1件のみで、「全く知らなかった」が8件を占めた。

選択肢	回答数	構成比
1. 知っていた	2	9.1%
2. 聞いたことはあった	1	18.2%
3. 全く知らなかった	8	72.7%
合計	11	100.0%

（2）まちづくり条例等の認知度

- ・「狛江市まちづくり条例」や条例に基づく「地区まちづくり」や「テーマ型まちづくり」等の制度を「知っていた」、「聞いたことはあった」という回答が各々1件のみで、「全く知らなかった」が9件を占めた。

選択肢	回答数	構成比
1. 知っていた	1	9.1%
2. 聞いたことはあった	1	9.1%
3. 全く知らなかった	9	81.8%
合計	11	100.0%

(3) 土地の利用方法（都市構造・土地利用）について

- 土地の利用方法については、「水とみどりの自然環境」などが評価されている。
- 改善すべき点は、「準工業地域と低層住居専用地域の隣接」、「農地の減少」、「狛江駅南口周辺の整備の立ち遅れ」のほか、北口についても商業地としての有効・高度利用の不十分さを指摘する意見が寄せられた。

◆よいところ（個人が複数の回答をしていることや、回答していない場合があるため、合計値は回答者数と一致しない。以下同様）

回答の種類	回答数
1. 低層住宅中心の良好な住環境	1
2. 水とみどりの自然環境（竹林・野川・公園・多摩川・農地等）	3
3. 公園の存在	1
合 計	5

◆改善すべきところ

回答の種類	回答数
1. 準工業地域と住宅地の隣接	1
2. 農地の減少	1
3. 狛江駅南口周辺の整備の立ち遅れ	1
4. 狛江駅北口周辺の商業地としての利用の不十分さ	1
5. 航空計器跡地等の土地利用規制	1
6. その他（ビジョンの不明確さ・地域毎のテーマ設定の必要性・「オーケー」付近の開発の必要性・バーベキューの問題・大企業の誘致・水道局用地の有効活用の必要性・第7小学校跡地の公園化）	7
合 計	12

(4) みちづくりと交通（道路・交通網整備）について

- ・「幹線道路の整備の進捗」を評価する回答は2件であった。
- ・改善すべきところとしては、水道道路・猪駒通り・狛江通りなどの「幹線道路の歩道整備」をはじめ、歩行空間の整備に関わる意見が多く寄せられた。

◆よいところ

回答の種類	回答数
1. 幹線道路整備の進捗（東京都心へのアクセスの良さ等）	2
2. 散歩道の整備	1
3. 踏み切りがない	1
4. こまバスの運行	1
合計	5

◆改善すべきところ

回答の種類	回答数
1. 幹線道路の歩道の狭さ（水道道路・猪駒通り・狛江通り等）	2
2. 主要生活道路における歩道整備や自動車速度の抑制（八幡通り）	2
3. 生活道路整備の立ち遅れ（岩戸南東・元和泉等）	4
4. こまバスの充実	2
5. 歩道上の自転車通行	1
6. 交通量が多い住宅地内の幹線道路での信号機の不足	1
7. 舗装の状態	1
8. その他（コミュニティ道路の整備の立ち遅れ・土地利用のビジョンとの整合と交通手段の想定に基づいた道路計画・狛江南口の車両進入規制の必要性と放置自転車の問題・多摩川サイクリングロードの照明の必要性）	4
合計	17

(5) 緑のまちづくり（公園など緑の保全と整備）について

- ・緑のまちづくりについては、「みどりの存在」「農地の存在」などのほか、「水辺の楽校」の取組みも評価されている。
- ・改善すべき点としては、緑の減少のほか、街路樹などの適切な維持・管理の必要性などに関する意見が寄せられた。

◆よいところ

回答の種類	回答数
1. みどりの多さ	1
2. 地元産野菜	1
3. 弁財天池の緑地保全	1
4. 「水辺の楽校」の環境	1
5. 多摩川や多摩川住宅周辺の桜	1
6. その他（重点地域の明確化・緑の保全努力・農地の重要性を考える教育等）	4
合 計	9

◆改善すべきところ

回答の種類	回答数
1. 樹林地や農地など緑地の減少（開発による）	1
2. 公園の魅力の不足	1
3. 植栽の樹種・数量・手法等の総合的検討	1
4. 街路樹や公園の樹木の維持・管理	3
5. 保存樹木（生垣）の指定の妥当性	1
6. その他（緑の多さによる防犯上の問題・現行計画の論理性の乏しさ・直売所や市民農園の整備・多摩川のバーベキューの問題・公衆トイレの不足等）	6
合 計	13

(6) 美しいまちづくり（都市景観の保全と創出）について

- ・都市景観については、「多摩川・野川の水辺空間」のほか、狛江駅前の景観を評価する意見が寄せられた。
- ・改善すべき点としては、マンションの景観・ごみの問題など、下記の通りさまざまな意見が寄せられた。

◆よいところ

回答の種類	回答数
1. 多摩川・野川の水辺空間	2
2. 電柱が地中化された狛江駅前の景観	1
3. 放置自転車の撤去による狛江駅前の景観改善	1
合 計	4

◆改善すべきところ

回答の種類	回答数
1. 多摩川から見える川崎市内のマンションの景観	1
2. 住宅密集地の景観	1
3. 幹線道路上のごみの問題	1
4. 多摩川の河川敷の景観	1
5. 雑然とした都市景観（建築物のデザイン・色彩等）	1
6. その他（現行計画の論理構成・カラスの多さ・多摩川でのバーベキューの問題等）	4
合 計	

(7) 安心・安全のまちづくり（防災・防犯・交通安全）について

- ・安心・安全のまちづくりについては、「近所付き合いがあること」「意識」といったソフト面での指摘があった。
- ・改善すべき点としては、「大規模集合住宅の安全確保の必要性」「自転車による交通事故の危険性」などの回答が寄せられた。

◆よいところ

回答の種類	回答数
1. 近所付き合いが密であること	1
2. 防災に対する意識の高さ	1
合 計	2

◆改善すべきところ

回答の種類	回答数
1. 道路環境の悪さと街灯の設置の必要性	3
2. 避難所付近の塀の倒壊危険性の問題	2
3. 主要生活道路のコミュニティ道路化（自動車の速度抑制のための凹凸設置等）	1
4. 自転車による交通事故の危険性（マナー向上）	2
5. その他（ごみ投棄や落書きの防止・駅前の喫煙所の廃止・交番の場所・交差点名称の表示・防犯意識の向上・小学校の防災倉庫の鍵の管理の問題・防災ボランティアセンターの設置検討等）	7
合 計	15

(8) 福祉のまちづくり（バリアフリー化等）について

- ・福祉のまちづくりについては、「よいところ」として「地形が平坦であること」「多摩川の河川敷の簡易舗装」が評価されているほか、ソフト施策に関する回答があった。
- ・改善すべきところとしては、「歩行空間整備」に関わる意見のほか、狛江駅南口の問題など、下記のとおりさまざまな意見が寄せられた。

◆よいところ

回答の種類	回答数
1. 地形が平坦であること	1
2. 多摩川土手の砂利舗装	1
3. その他（高齢者の緊急通報システムの導入・市民活動支援センターの設置）	2
合 計	4

◆改善すべきところ

回答の種類	回答数
1. 歩行空間整備（歩車道の段差・幅員不足・路面状況）	6
2. 狛江駅南口の放置自転車問題と駅前広場の改善	1
3. その他（狛江通りの拡幅の遅さ・子育ての視点からの都市計画・こまバスへの介助員の日中配置等）	5
合 計	12

4. 自由意見

【団体アンケート】

- 大企業の少ない狛江では急速な大きな改善は難しいと思うので（新しいマンションがいくつも出来ているが全体として人口は増加していないのでは・・・。）文化面で実績を上げることが大切なのではないのでしょうか。
- 子どもが生き生きとしている街は安泰だ。という話があります。まちづくりを大人が決め、作る以上、大人のための街づくりになります。子どもたちにとってはどんな街だったら良いのか考え計画していただきたいと思います。（公園のつくりやルールは大人のためである事が多いです。）ある市では、子どもからどんな遊び場があったらいいか、アンケートをとった街もあるようです。狛江に生涯住みたいと思えるような、環境をつくる上でも、子どもの視点での計画を忘れずに行っていただきたいと思います。市内で子どもが絶望し自殺する事がもう2度とないように。生きる力の根を育める環境作りを！
- 狛江市の知名度の向上。
- 駅の前をもっと発展させてほしい。
- 道路工事が遅い。時間のかかりすぎのように感じる。
- 相続等で畑等、物納された場合、市が仲介して公園等に出来たら最高です。
- 水と緑、そして土地と自然に恵まれた狛江市。市民、行政が一体となり町づくりに努めれば、子どもからお年寄りまで、本当に快適な生活が送れる町になると思います。一方通行の町づくりでなく、市民全体で考えられるような事業に育ててください。
- 都市計画マスタープランをつくるのは良いが、如何に計画を実施して行くかが問題だと思う。市が実施面でのリーダーシップを発揮しなければ絵に描いた「もち」になってしまう。
- 住宅地としての良さを残すように。災害時の対策①道路、②市民の避難広場
- サイクリングロードが確保できる計画があると良い。
- 学校の校庭（芝生）を地域にも開放し、市民や地域の“財産”のような場にできればと思います。防犯や管理の問題もあり、なかなか難しい所ですが、他の自治体では校庭芝生を市民のレクリエーション（ゲートボールとか）に開放する所もあるようです。
- 学校の学区変更や統廃合の話が耳に入りますが、一般の父母にはよくわかりません。長期的な方針や話し合いの経過、問題点などのわかりやすい説明があると良いかな、と思

うことがあります。

- マスタープランの策定時から気づいておりましたが、現在特に感じていることは、市内の通り抜け道路を極力排除することだと思います。市の周辺を回るリング道路を充実させ、車の市内通過を減少させることです。ヨーロッパの都市にならうとよいと思います。小田急が高架になって、市内の交通、人の流れなどがスムーズになり、市の全域が一体化したことは評価できます。
- 市行政が行っている保育園の建物が古すぎます。早期の建替え要望します。
- 狛江市の市域を明確にする。（ここから狛江市と云う標識が少ない。）住宅街が雑然としている。道が狭すぎる。少しは都市計画らしくありたい。
- 狛江は都心から大変近く便利な市でありながら、のんびりした雰囲気を持ち、ホッとする市です。多摩川と野川という2つの川を持ち、緑の減少と補っています。小さな公園や市民農園もどんどん宅地化され緑の保全是厳しい状況にあると思います。
- 「自分の街は自分で護る」の方針は理解できるが、住民末端までその意図やメッセージ、思い、現実の問題が浸透していない様に感じられる。意識の高い住民は積極的だが、意識の低い住民は他人事と捉えている。団体でも積極的に説明や啓蒙活動を行っているが、本来業務の責任者・担当者の活動が住民の目に見えない。
- 6-4) 美しい街づくりの項で挙げた「自転車の乱雑駐輪状態」に対して、数十年前、数年前とは比較にならない程、良くなってきており、市役所の対応の成果と考えている。更にもう一步の改善努力で「本来あるべき姿」になると考えられる為、継続して互いに努力しましょう。市職員の中には大変努力され、業務を全うしようと頑張っている方もいらっしゃいます。頑張っている職員を全体でバックアップ・フォローし、模範職員を見習い、職員全体の意識向上を目指してください。
- 今回、我々が狛江市初の第二中学区域避難所運営協議会を立ち上げ、今、想定できる事について、試行錯誤しながら、実地訓練まで辿り着きました。市役所職員のご協力に感謝いたします。今後は、狛江市全体に我々の基礎を拡張し拡充し、より蜜で、より洗練された実地訓練（起きて欲しくはありませんが、本当の災害時）に活用できるよう、ブラッシュアップしていきましょう。その為には、今回の4町会のみならず、狛江市全体の団体との情報共有や、パイプが必要となります。民主導を成功させる為には、これまで以上の市役所と地域の連携が必要です。本当の意味で「住みよい町」「安心で安全な町」が互いに連携し、相互扶助し合いながら、「住みよい狛江市」「安心で安全な狛江市」となるよう、ご指導・援助・補助をお願い致します。
- 道路が市内を通りぬけなくても、市街地にぬけられる様に道路整備をしてもらいたい。大きな工場跡地をマンションばかりではなく、総合的な建物（ショッピング、住宅地、学校）

にしてもらいたい。住宅と農地が近づいてきた為に、農業をしている人がやりづらくなってきたので、緑を多く残す為の計画をしてもらいたい。

- 確実に予想される首都直下地震を意識した防災、避難、復旧、復興の要素をマスタープランに入れる検討をしていただきたい。
- 行政が市民（団体を含む）の意見を吸い上げる様にすべき。特定の有識者や会社に任せってしまうのではなく市民が一体となって考えるべきと考えます。（委員会が多すぎます）

【オープンハウスアンケート】

- 行政の接する（調布・狛江）地域での「まちづくり」の検討。
- 東京航空計器の跡地を一種住専の地域にして欲しい。
- よく都市計画や市の方針がよく見えてこない。（長期的にも短期的にも）〈水と緑のまち〉文言だけのような気がする。
- 本日、たまたま住民票をとりに来て、ビデオを半分程みました（5時前だったため）。このような説明の場ははじめてでわかりやすく興味をもちやすいと感じました。地震の際の倒壊危険地域はなぜなのかと話していた時、となりの方が川だったところと教えて下さいました。見ながら市民どうし、あれこれ話し合ったりすれば、関心も高まり市民のつながりもできよいのではないと感じました。このような場はもっとにぎやかに広く行われてもよいのではないのでしょうか。
- 公園の整備に関して、全市的に配置、公園の性格などを検討してほしい。認証保育園児の遊び場、小中学生が自由にボールあそびできる公園、緑を楽しむ公園など。計画段階から市民が参加したとんぼ池公園などのように、市民自身が様々な意見を調整しながら形づくっていくことを市が支援できるとよい。市民が意見を出し合えるまちづくりサロンの設置。オープンハウスの試みはとてもよいと思います。狛江駅構内などでやるとより多くの市民の意見がきけるのではないのでしょうか。
- 福祉のまちづくり一人は産まれ、死ぬ。産院はあるが、葬り送る施設の公的支援がほしい。斎（祭）場建設は大変です。市内にある斎場使用を活用。その為に、補助、援助をする方法は如何なものか？
- まだまだ自分のすむ地域を知らないと思った。わからないので、意見もかけないと思った。
- 6項 1～6 の何かポイント。狛江市の売りにするのか不明確。財力からいって、ポイントをきめて進めてください。人が中心で、自然豊かな要素を市民が元気を出せる方向にまとめてください。最大の資産は人しかない街です。より良い改善が進みますよう応援いたし

ます。

- 多摩川の河川敷のバーベキュー利用について、市として結論を出してほしい。範囲限定にする。(環境を守るため) OKとするならきちんと管理できる体制をしくこと。
- 相続のためやむをえず、なのだと思うが畑や竹林がどんどん減少している。可能な限り、残せるよう市が働きかけをして欲しい。(財政上市が購入するのは難しいと思うし、法律上も止められないと思うが・・・せっかくのまとまった緑が消えていくのがもったいない・・・)
- 6-3の駅前緑地にある小屋??の有効活用をして欲しい。緑地を1ヶ月に1回しか解放していないのに、あの立派な小屋の存在意義は一体??
- こまバスを利用している人を見たことがない。お年寄が利用しているのなら良いけれど、お年寄の方々にも認知度が低いようだ。

【ホームページアンケート】

- 狛江市内だけで生活している住民は殆どいないと思うので、近隣自治体とも調整して、都市の役割分担を明確にしたうえで、都市計画の策定を進めてほしい。
- 水道局資材置き場に3中移転と南部グランド。現3中を公園に。(予算があれば)
- 中央図書館は ワンフロアで 小田急高架下に。(狛江~和泉多摩川間か狛江通りから いちょう通り間) 読書環境を守る為、複合施設にはしない!
- 市民であっても市内のことを知らないと感じた。これから、高齢者が住みやすい街、高齢者のための費用も少なく済むように前から環境を整えるなどの地域市民の目で長い目を見た方策を考える必要がある。また、市民との協働もキーワードです。
- 市街地が連続し、通過型性格を持つ当市は周辺都市との関係で何らかの役割を担うことが必定：広域機能では、多摩川と世田谷通りとの接点に位置する和泉多摩川緑地の整備が緊急の課題。
- 23区で行われているように、まちづくり条例を改正して、事業者への強制力を強化する。市があらかじめ設定した、高さ制限、住戸数制限、住人密度の制限を事業者が各課協議でクリアして初めて事業協定書が締結される、それ以前に建築確認ができないように、まちづくり条例を改正する。
まちづくり条例を改正して、事業者への強制力の強化が必要である。例えば、調整会の勧告に従わない場合などにも罰則を科せるようにする。
- 住宅都市をめざすにしても、商店街の活性化、にぎわい創出は必要。空店舗対策、しゃれたお店やベンチャー企業誘致、創業支援など商工会等を連携し、積極的に助成・誘致を行

うべきである。

- 清水川跡地利用計画作成だけでなく、行政は市民参加、市民協働によるまちづくりをもっと積極的に進めるべきである。当会は、調査地域の住民に対するアンケート調査、住民ぐるみのワークショップを開催する中で、一市民団体が主催する限界を感じている。住んでいる街に関心を持ち、積極的にかかわりをもつ市民を育てるためにも、行政のより積極的な関与が必要。
- マスタープランの改定にあたって子どもたちの声を聞く仕組みづくりが大切。狛江に将来も住み続けたいと思えるかどうか、若い世代にとって魅力あるまちづくりの視点を生かすことが必要。
マスタープランは自分が住んでいる土地の土地利用（どんな用途地域で、どんな制限があるのか、違反するとどんな罰則があるか等）に重大な影響を持つので、十分広報して周知することが必要。